

中部国際空港における 国際拠点空港としての機能実現の 取組み等について



中部国際空港株式会社

平成18年11月21日

第2回 国際拠点空港のあり方に関する懇談会

centrair

当社についての完全民営化について

当社についての完全民営化について

「中部国際空港株式会社については、(中略)供用開始後、経営状況を見つつ、完全民営化に向けて検討することが適切」(平成14年12月6日 航空分科会答申)。



- ・開港後1年半余が経過したばかり
- ・状況に応じ、必要な施設整備を行うなど、機能強化に取り組んでいるところ
- ・将来にわたり、国際拠点空港としての役割が果たせるよう、必要な機能強化(24時間フルに運用ができること)を実現させていくことが先決。

セントレアの概要

中部国際空港（セントレア）の概要

中部国際空港の設置及び管理に関する法律に基づき、
中部国際空港の設置管理者として指定を受けた民間企業。

会社概要

- 会社設立 1998年5月
- 役員数 279名（2006年4月1日現在）
- グループ会社：5社
 - ・中部国際空港エネルギー供給(株)（電力温冷水等の供給）
 - ・中部国際空港情報通信(株)（情報通信設備の保守・管理、電気通信事業）
 - ・中部国際空港旅客サービス(株)（旅客案内、直営商業店舗運営等）
 - ・中部国際空港施設サービス(株)（空港施設全般の運転監視、設備の保守・管理）
 - ・中部国際空港給油施設(株)（航空機給油施設の運営・維持・管理）

平成17年度就航実績

- 国際旅客数 533万人 ○国内旅客数 702万人
- 国際貨物取扱量 23.3万トン ○年間発着回数 10.6万回

現在の就航状況

- 国際旅客 340便／週 31都市に就航
- 国内旅客 86便／日 22都市に就航
- 国際貨物 48便／週 18都市に就航
- 国内貨物 1便／日 1都市に就航

財務指標

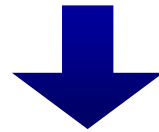
（平成17年度連結決算）

- 総資産 5,557億円
- 借入金残高 4,667億円
 - 無利子借入金 1,673億円
（借入先：国、地方公共団体）
 - 有利子借入金 2,995億円
- 売上高の内訳
 - 航空系収入 226億円（43%）
 - 非航空系収入 299億円（57%）
 - 計 526億円
- 営業利益 90億円
- 経常利益 23億円
- 当期純利益 21億円
- 【資本構成】（単体）
 - 資本金 836億円
 - 株主構成 国 40%
地方公共団体 10%
民間企業等 50%

**利便性・経済性に優れた、
競争力のある国際ハブ空港づくり**



中部国際空港は、民間主導で作る初めての空港



**「利便性・経済性に優れた、
競争力のある国際ハブ空港づくり」
というコンセプトのもと、様々な取組みを推進**

経済性の向上

建設事業費の削減

トータルな運営費の最小化

商業収入の充実化

利便性の向上

**低廉な着陸料などの実現
による路線誘致・便数増**

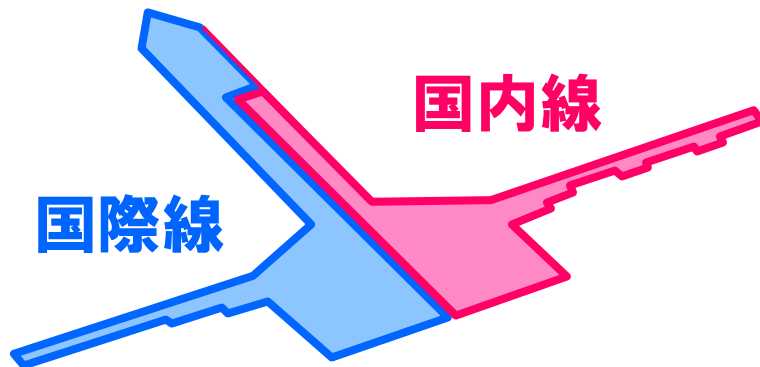
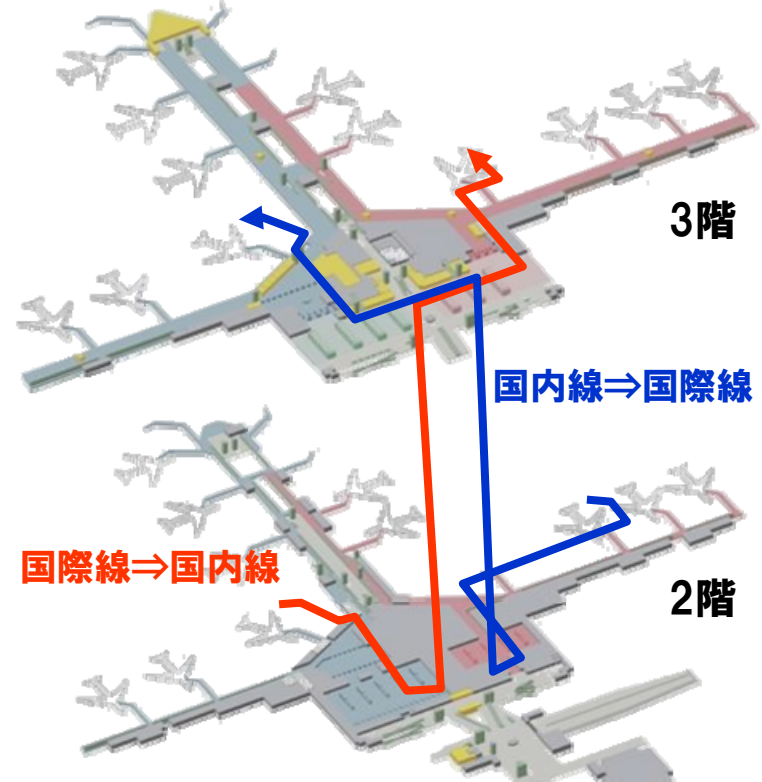
**旅客ターミナルビル構造や
貨物施設の配置等の工夫**

CS（顧客満足度）の向上

利便性の向上の例：国内線・国際線が一体となったターミナルビル



- 国際線と国内線を同じフロアの左右に分離
- 日本各地から、海外への乗継も非常に便利



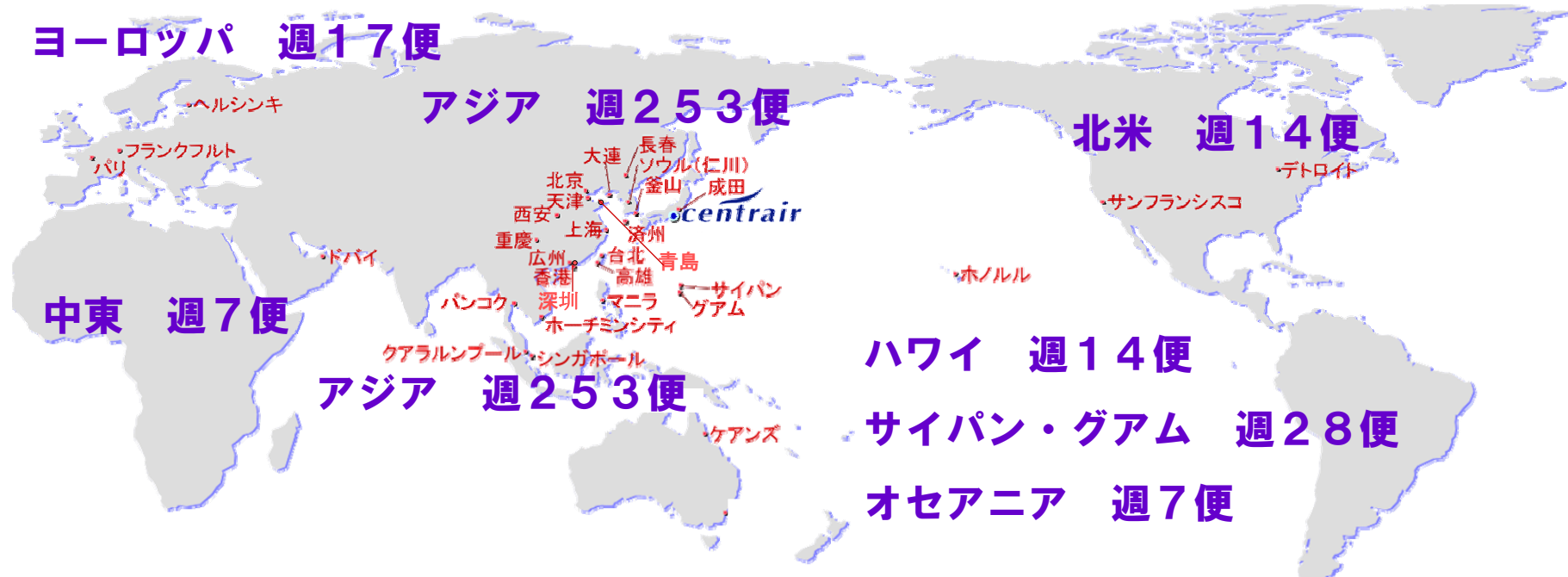
	成田	関西	中部
便数 / 日	17	55	86
就航都市数	8	17	22

平成17年度実績

	平成17年度		平成16年度 (小牧空港のデータ含)
	実績	目標	
① 航空旅客数	12,351千人	12,000千人	11,185千人
国際線旅客	5,329千人	5,000千人	4,494千人
国内線旅客	7,022千人	7,000千人	6,691千人
② 国際貨物取扱量	233,058 t	最大300,000t の施設を用意	110,221 t
③ 航空機便数			
国際線旅客	週 3 2 2 便		週 2 2 0 便
国際線貨物	週 5 4 便		週 5 便
国内線旅客	日 9 6 便		日 1 0 2 便
国内線貨物	日 1 便		0 便
④ 来場者数	18,166千人	3,000千人	(データなし)

旅客便の就航状況

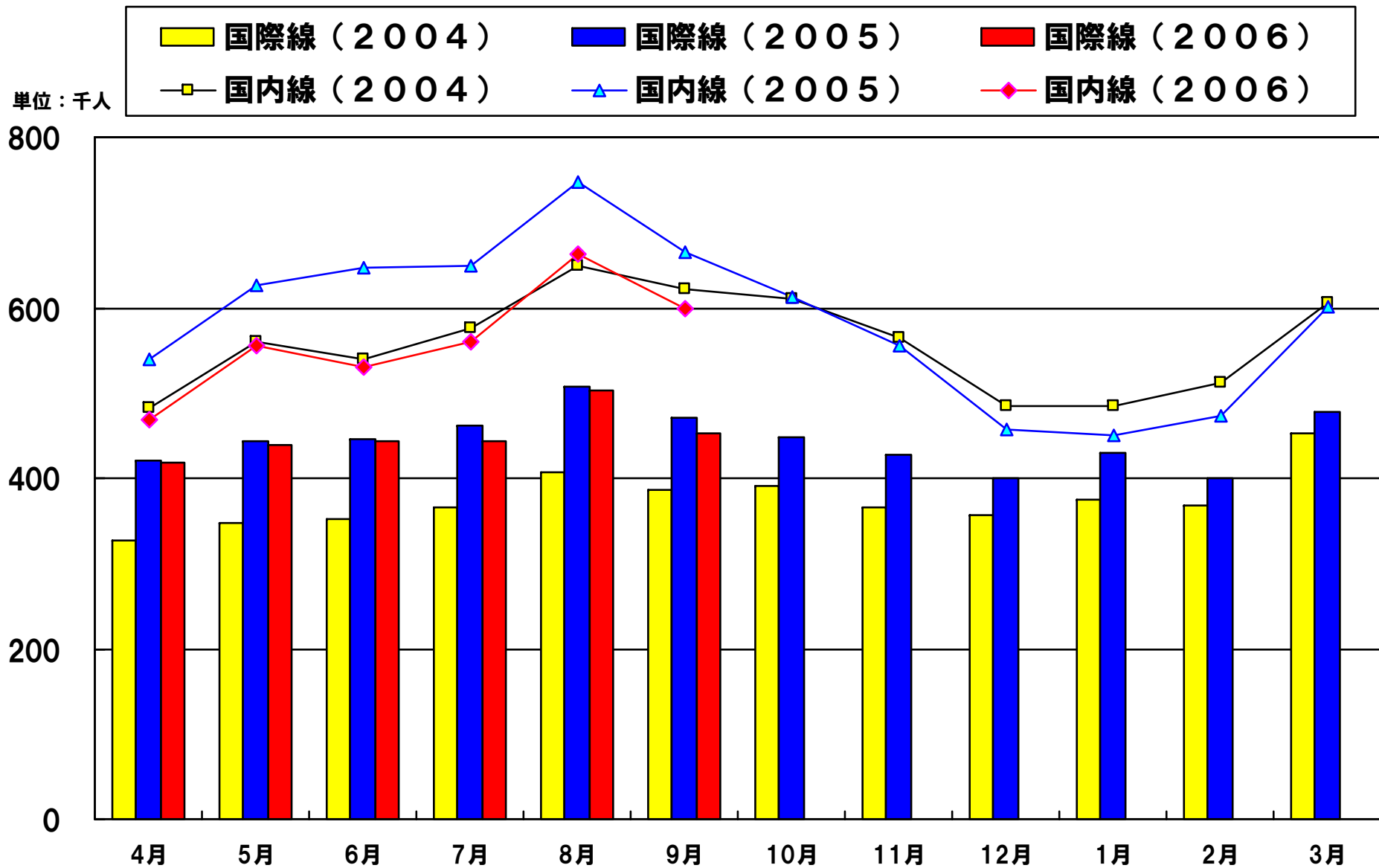
国際線 就航都市数 31都市 340便/週



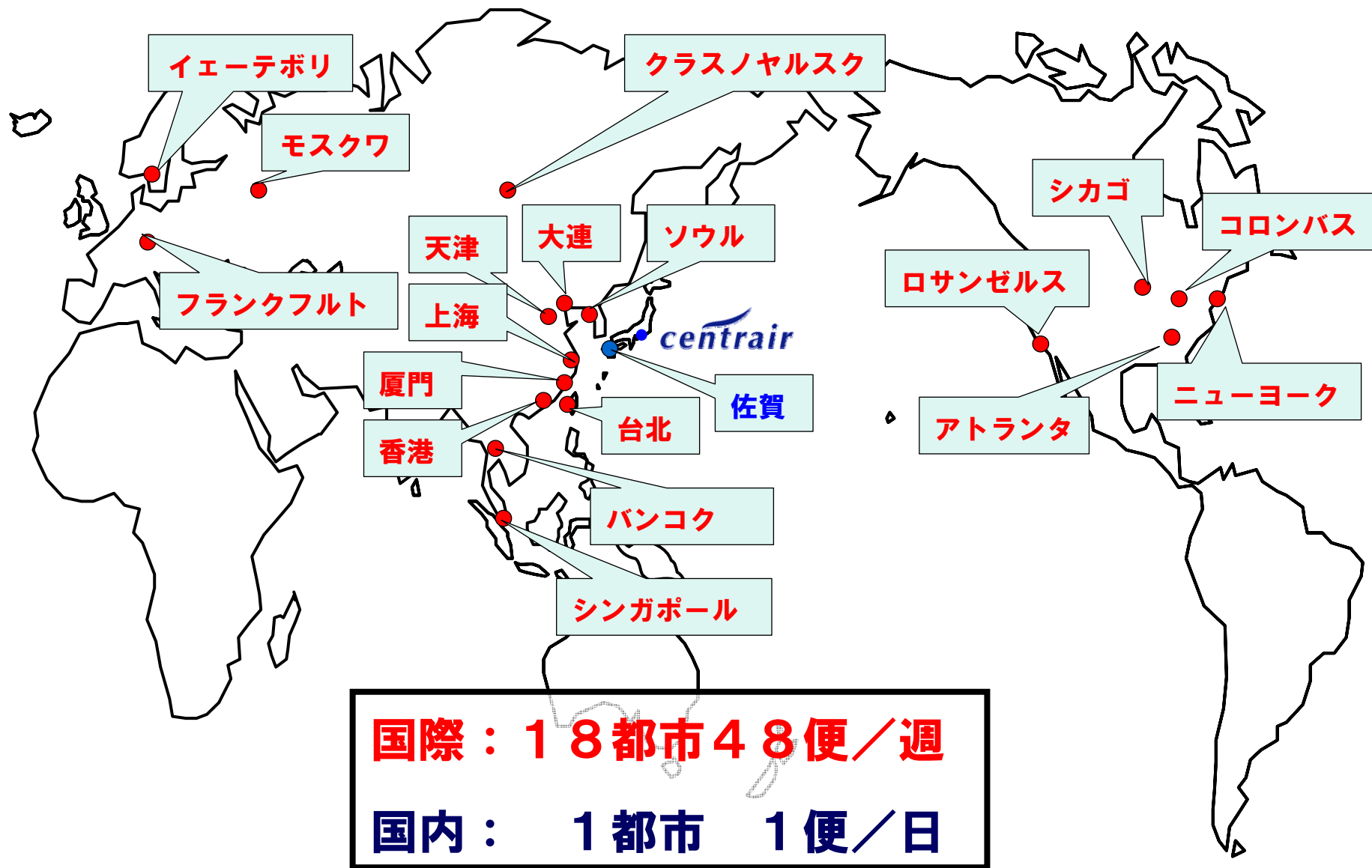
国内線 就航都市数 22都市 86便/日

札幌・女満別・旭川・釧路・函館・青森・秋田・花巻・仙台・福島・新潟・成田・米子・徳島・松山・福岡・大分・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・那覇

旅客数の推移（前年比較）



貨物便の就航状況

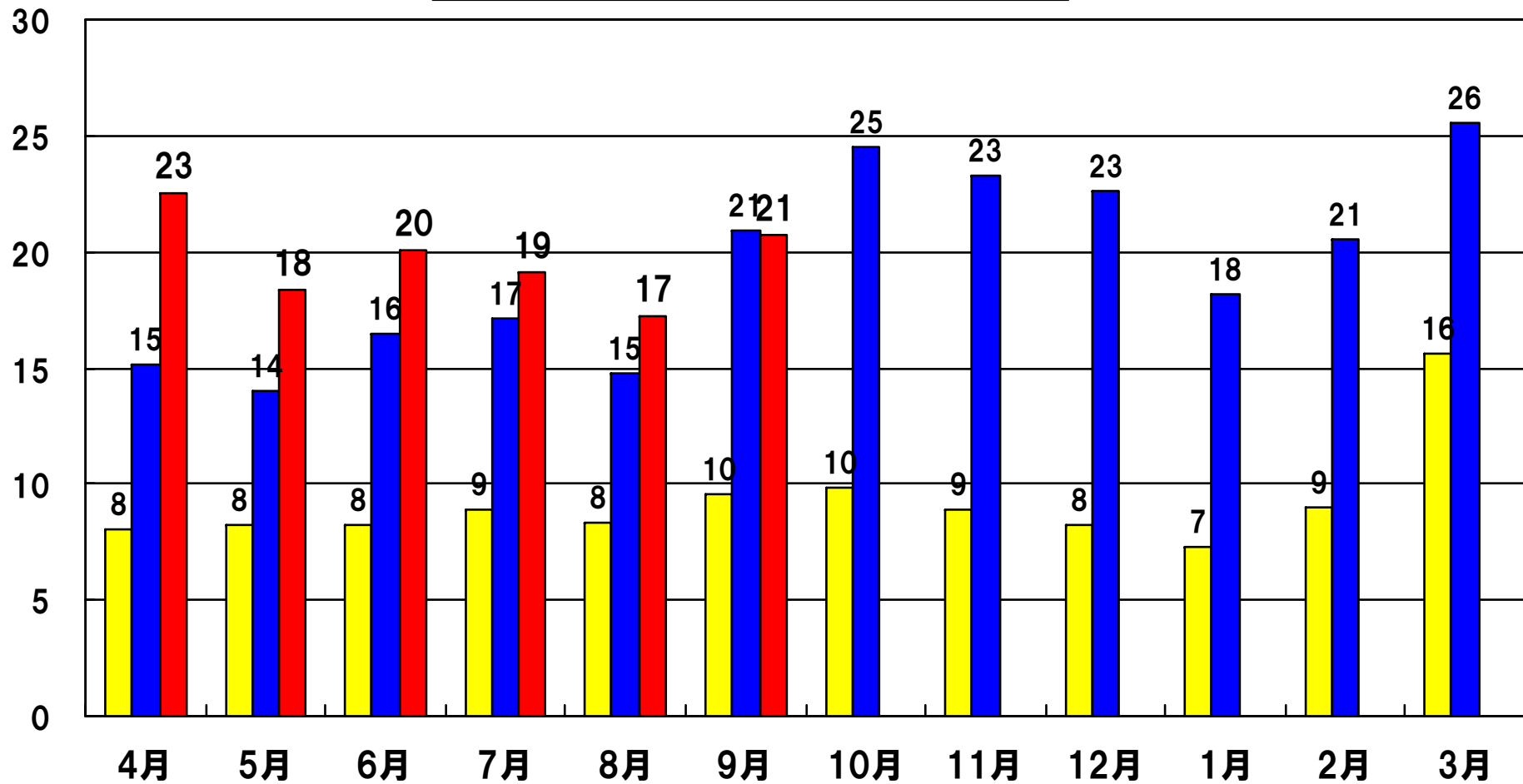


国際貨物輸送実績（前年比較）

貨物実績比較（国際航空貨物取扱量）

単位：千トン

■ 2004年度 ■ 2005年度 ■ 2006年度

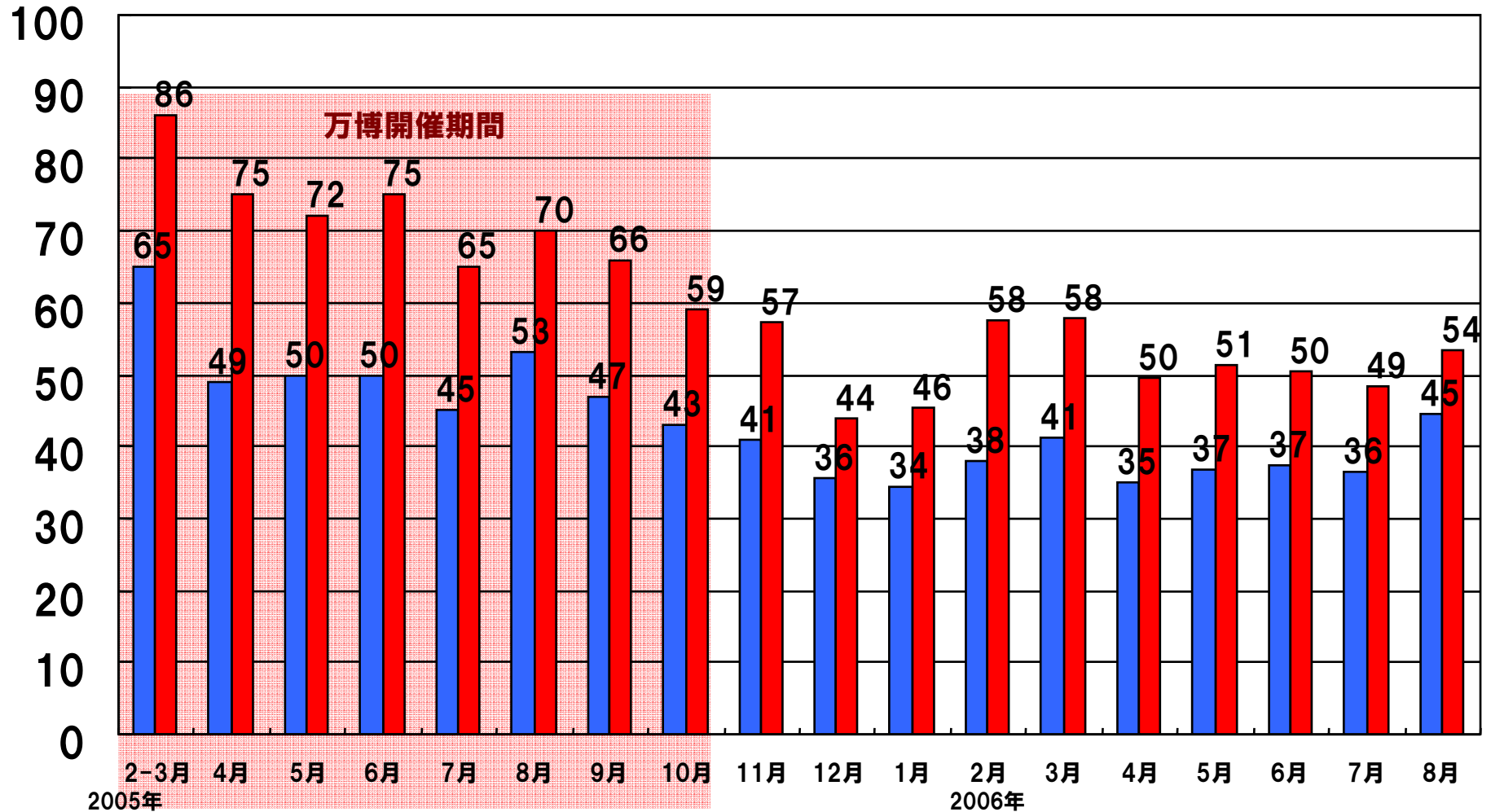


来館者数の推移

単位：千人

平日・休日別の平均来館者数

■平日 ■土日

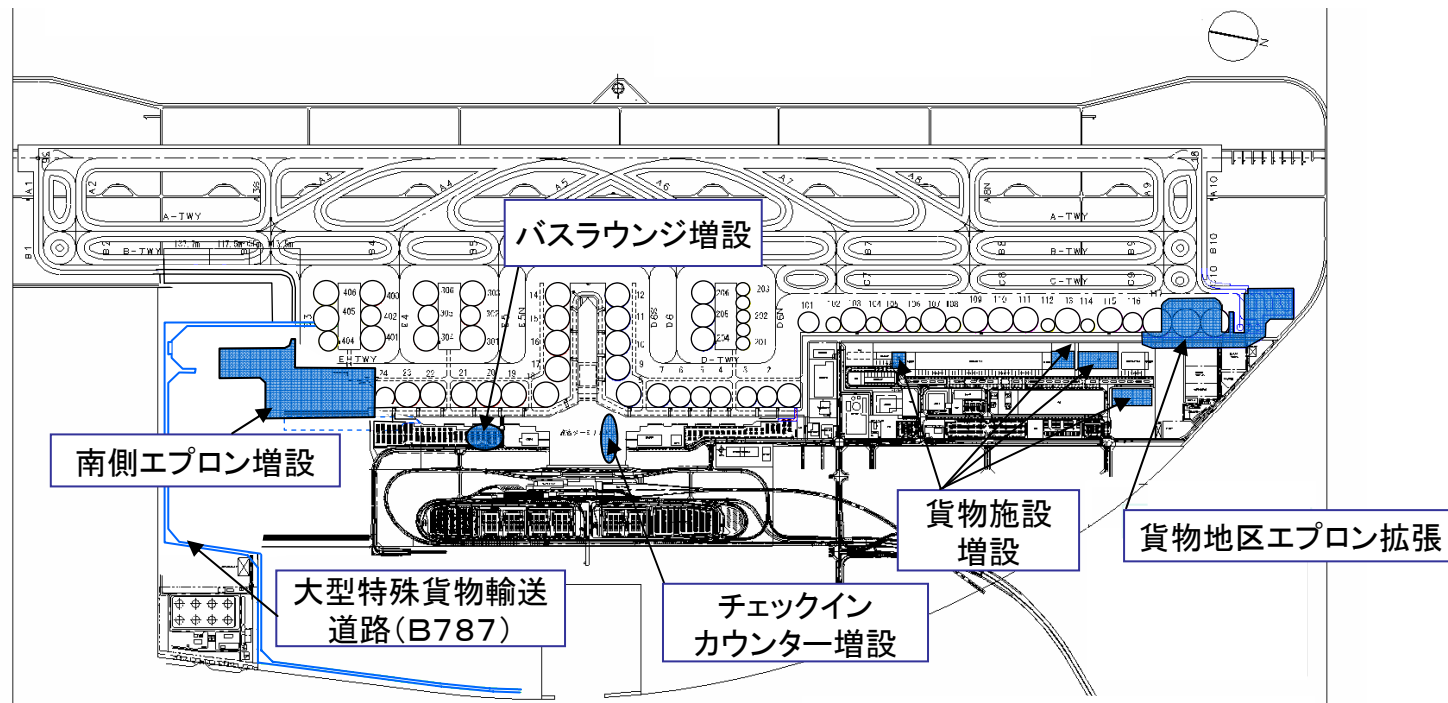


現在の認識：万博、開港効果も終わり、真の実力が問われるところ。



継続的な空港施設の整備と維持補修等の必要

- ・航空機の小型化やピーク時の離発着の集中等によりエプロン・スポット需要が逼迫。また利用者や航空会社などの多様なニーズに対応するため、以下の図のように**継続的に施設を整備**



- ・夜間の航空貨物輸送はリードタイム短縮のために非常に有効であるが、深夜貨物便の増大などにより、滑走路等のメンテナンス時間の確保が厳しくなっている状況

今期及び中期経営戦略の概要

	2005年度実績	2006年度達成目標	2009年度達成目標
航空旅客数	2005年度航空旅客数実績は、愛・地球博関連の航空旅客数を除く		
国内線	650万人	670万人以上	720万人以上
国際線	515万人	530万人以上	610万人以上
旅客数 計	1,165万人	1,200万人以上	1,330万人以上
就航便数	貨物専用便を含む		
国内線	96便／日	100便／日以上	105便／日以上
国際線	360便／週	380便／週以上	450便／週以上
国際貨物取扱量	23万 t／年	30万 t／年以上	50万 t／年以上
売上高	526億円	526億円以上	570億円以上
当期純利益	21億円	1億円以上	黒字体質の定着
利益剰余金	△24億円	△23億円以上	累損解消を目指す

国際拠点空港の役割及び機能について

国際拠点空港としての役割・機能について①

中部国際空港のミッション

中部圏が国際競争力を持ってさらに発展していくために、また日本各地と世界を結ぶために、将来にわたり、国際拠点空港としての役割を果たすこと。

国際拠点空港として持つべき機能

国際拠点空港として持つべき機能は「24時間フルに運用ができること」。

他の国際拠点空港と同様に、中部国際空港においても将来的に2本目の滑走路が必要。

なお、これにより、中部国際空港が抱える以下の将来課題にも対処が可能となる。

- ・滑走路の老朽化に伴う維持補修の増大や、大規模改修等の際の空港機能の確保
- ・ピーク時間帯においてさらに逼迫する航空需要への的確な対応
- ・中部圏の将来の航空需要拡大への対応
- ・空港用地の制約に伴う、ニーズへの対応に必要な施設整備への制約

国際拠点空港としての役割・機能について②

2本目滑走路の整備のほか、利用者の多様なニーズに対応した空港機能の強化への取組みが必要。

(例)

- ・エプロン・スポット、誘導路整備
- ・旅客ターミナルビル拡張
- ・物流機能強化等のための空港用地の拡張



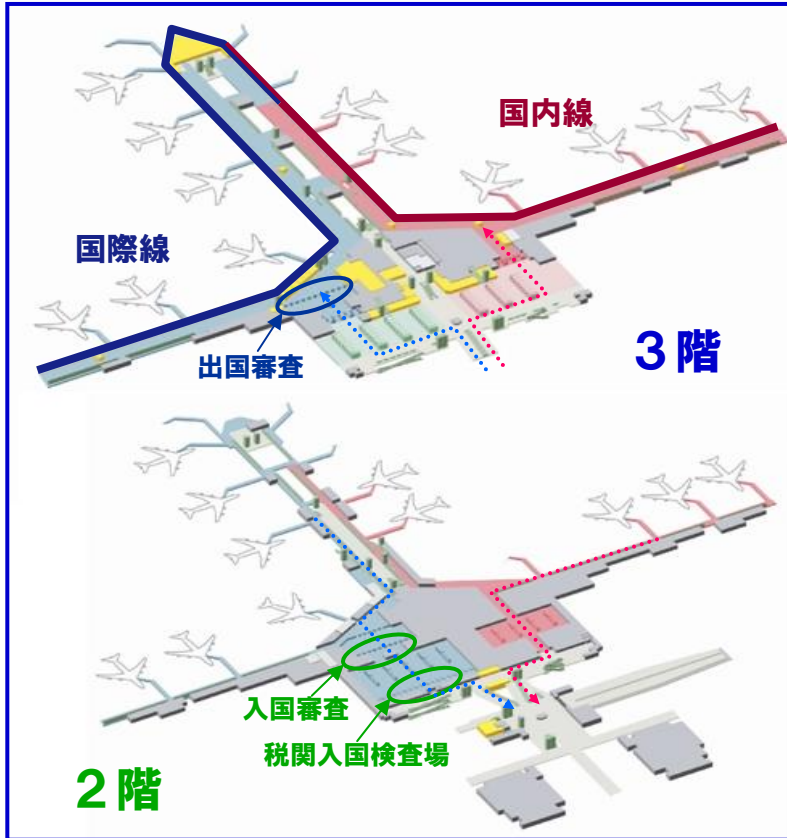
このような空港機能の強化にあたっては、引き続き国の支援をいただきたい。

中部国際空港における 保安対策、環境対策の取組み

保安対策

ハード面

1. 出発フロアと到着フロアを完全分離



2. 侵入防止柵、フェンス



3. 旅客及び機内持込み手荷物並びに受託手荷物に対する保安検査は、X線検査装置、金属探知器等の検査機器を使用した検査、開被、接触検査等により実施
4. 国際線受託手荷物は、インライン方式による検査を実施
5. 英国での航空機テロ未遂事件被疑者摘発以降は、搭乗ゲートにおいても航空会社等による検査を実施
6. 空港島周囲は、船による1日約8時間の巡視による警備を実施

ソフト面

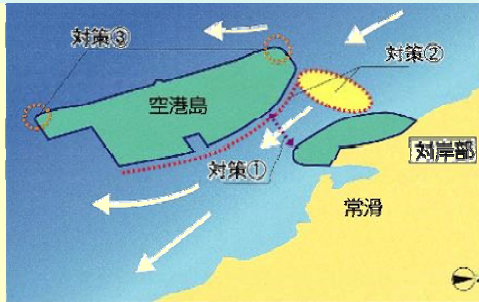
1. 各種訓練及び教育の実施
2. 関係機関による空港保安委員会等実施



環境対策など地域での取り組み

環境への配慮

海域環境に配慮した空港島の位置・形状



航空機騒音に配慮した海域の飛行経路等

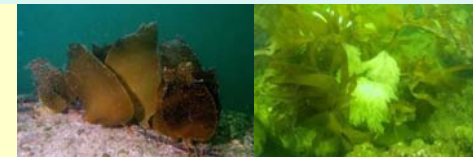
リサイクルセンター等の設置による省エネ・省資源の推進

GPU、低公害車の利用促進等によるCO₂削減・大気環境改善



中水・雨水の利用等による水資源の循環・効率活用

藻場の造成など生態系の保護



国際環境規格ISO14001の認証取得

環境モニタリング

空港周辺の環境についての現状の監視

ホームページや情報コーナーでの監視情報の公開

コミュニケーション・社会貢献活動

関係自治体との意見交換による連携

自治体等が実施する地域振興イベントへの協力

社会見学の通年での受入れによる地域教育への貢献



完全民営化にあたって国・地域に 期待すること

関係者間の役割分担

完全民営化を考えるにあたっては、将来にわたり、国際拠点空港としての役割が果たせることが必要であることから、国・地域の関係者には以下のような役割を期待したい。

国

国際拠点空港に必要な機能の整備など、空港会社による適正な競争に必要な環境の整備

地域

都市間競争のために必要不可欠なインフラとして、地域一丸となった積極的活用等、必要な機能の整備に向けた様々な支援

空港会社

国によって整備された競争環境の中で、求められる機能を発揮しつつ、自らの経営責任の下、最大限効率的な経営を行う

当空港と県営名古屋空港の役割分担について

～「定期航空路線の一元化」①～（国土交通省資料より）

○平成8年12月【第7次空港整備五箇年計画(閣議決定)】

中部圏における新たな拠点空港の構想について、定期航空路線の一元化を前提に、関係者が連携して、総合的な調査検討を進め早期に結論を得た上、その事業の推進を図る。

○平成9年12月 運輸大臣が閣僚懇談会において、愛知県知事から県が責任をもって一元化を行うとの文書の提出があり、一元化についての道筋が立った旨を説明。

○ " 12月【「中部国際空港の整備について」大蔵大臣・運輸大臣の合意】

名古屋空港における国内・国際定期航空路線については、中部国際空港へ一元化する。一元化後の名古屋空港については、自衛隊が使用していること、愛知県がゼネラル・アビエーション空港として活用したいとの意向があることを踏まえ、所要の措置を講ずる。

○平成13年11月【愛知県知事から航空局長あて文書】

名古屋空港は、中部国際空港開港後も小型機や通勤航空を中心としたゼネラル・アビエーション空港として生かして、地域の発展の基盤として活用を図ってまいりたい。

○平成17年2月 県営名古屋空港 2月17日開港（平成16年9月1日設置許可）

中部国際空港と県営名古屋空港の路線

中部国際空港単独路線： 女満別、釧路、旭川、札幌、函館、青森、花巻、仙台、福島、成田、徳島、米子、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

16路線

県営名古屋空港単独路線： とちち帯広、山形、高知龍馬、北九州

4路線



県営名古屋空港の概要

○設置者： 愛知県

○指定管理者： 名古屋空港ビルディング株式会社

○面積： 約164ha

○滑走路の長さ： 2,740m 幅： 45m

○通勤機用： 7スポット、大型ビジネス機用： 6スポット、小型機用： 75スポット

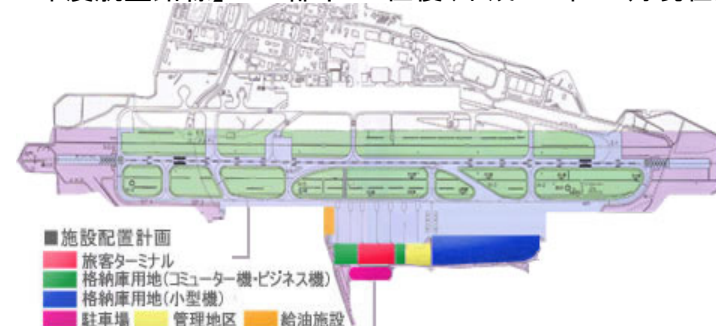
○運用時間： 午前7時から午後10時まで

○駐車場： 455台(身体障害者用7台含む)

【平成17年度利用状況】 通勤機用航空旅客数： 305,744人

国際ビジネス機飛来数： 90機

【平成18年度航空路線】 10都市21往復(平成18年11月現在)



当空港と県営名古屋空港の役割分担について ～「定期航空路線の一元化」②～

対 処

定期航空路線の一元化については、今後地域において調整を行っていくこととなるが、国においても状況を見守っていただくとともに、必要に応じて国としての対処をお願いしたい。